

- レセプトデータベース等

 - レセプト情報

 - DPC情報

 - 特定健康診査情報

- 病院情報システム

 - 電子診療録情報

 - 処方オーダーシステム情報

 - 検査オーダーシステム情報

 - 客観的なデータである
 - 既に多くの病院で導入され、データベースが存在している
 - 病診連携での情報共有が実用化されつつある

スタチン系薬剤に関する筋障害の実態調査(進行中) (Retrospective Observation Study)

目的: 病院情報システムのデータを利用し、スタチン系薬剤について臨床の使用実態下における安全性情報の収集・評価を行う手法を検討する。

調査実施医療施設: A病院、B病院、C病院、D病院

調査対象期間(暫定): 平成18年10月1日～平成20年3月31日

調査対象薬剤: スタチン系薬剤(アトルバスタチン、プラバスタチン、シンバスタチン、ピタバスタチン、ロスバスタチン、フルバスタチン)

調査対象検査項目: 血清クレアチンキナーゼ(CK)、血清クレアチニン(Cr)、血中尿素窒素(BUN)

調査方法: 各施設の病院情報システムから、調査対象期間における調査対象薬剤の全処方データ及び調査対象検査項目の全検査結果のデータをそれぞれ抽出した後、匿名化した患者IDを用いて両データを統合し、スタチン系薬剤が処方された患者毎の処方歴・検査歴を作成する。